

令和5年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅳ 【 進路指導の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
<p>○進路指導担当者及びクラス担任が学生の希望に沿った相談指導（就農、就職、進学）を行いながら、農業の良さを知ってもらうための講座、面談会、実習等を実施し、就農者の確保を図っている。また、雇用就農については茨城県農林振興公社と連携して個別相談会等を実施しているが、過去5か年の就農率は54.4%と学生の約半数に留まっている。</p> <p>○入学時には就農を目指しているが、卒業時には関連企業や他産業に就職する学生がいる。（R3年度推薦入学37人中（うち1名は研究科）、就農者26人：26人/36人=72.2%）</p> <p>○果樹関係の求人がほとんどなく、果樹コースの学生にとっては、雇用就農を希望しても就農先が無い状況である。</p>	<p>○内部の就農支援体制を強化したうえで、茨城県農林振興公社及び担い手が不足している産地等と連携を強化し効果的に就農支援活動を実施する。</p>	<p>就農率の向上</p> <p>就農率 60%以上</p>
<p>○進路に関する意識が低い学生や、年末や年明け後に初めて就職活動を開始する学生がいる。</p> <p>○年度末になっても進路が決定せずに、そのまま卒業してしまう学生もおり、過去5か年の進路決定率は98.0%となっている。</p>	<p>○早い段階から進路に関する意識づけを行い、学生の希望に沿った進路指導を実施する。</p>	<p>進路決定率の向上</p> <p>卒業時進路決定率 100%</p>

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

(1) 就農率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準										
<p>就農率 60%以上 【R4実績 57.6%】</p>	A	<p>2年生60人のうち36人（決定34人、見込2人）が就農する見込みで、就農率は60.0%（3/7現在：親元就農9人、雇用就農27人）となり、目標を達成した。</p> <p>また、新たな形での農業へのかかわり方として、昨年度同様に農業への人材派遣会社へ就職する学生も1人見られ、その学生を加えると37人（61.7%）の農業に従事する人材を育成することができた。</p> <p>2年生担任と進路担当が連携して学科・コースごとに目標を設定し、就農率向上に取り組んだ。10月には就農希望で進路未定の学生16人に対し茨城県農林振興公社と連携し個別面談を実施し、学生の希望する地域や品目に応じた農業法人等の情報提供を行い、面談後は伴走支援を実施したことで、12人が就農し2人が就農活動中である。</p>	<p>農林振興公社などの専門機関と連携した進路指導に加え、先進農業派遣実習や産地交流会などで現場とつながった活動により、目標を達成したことは評価できる。</p> <p>就農を目指す学生が夢を持ち、その夢に向けて確実に歩んで行けるよう、在学中に営農計画や人生設計が作成できるよう指導できるとよい。</p> <p>達成度の評価基準と照らし、A評価は適当である。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>100%達成</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>80～99%の達成</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60～79%の達成</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>40～59%の達成</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>39%以下の達成</td> </tr> </table>	A	100%達成	B	80～99%の達成	C	60～79%の達成	D	40～59%の達成	E	39%以下の達成
A	100%達成													
B	80～99%の達成													
C	60～79%の達成													
D	40～59%の達成													
E	39%以下の達成													

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果 ※（ ）内は前年度実績	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【拡充】内部の情報共有と就農支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科及びコースの就農目標を設定する。（4月）</li> <li>進路指導委員会を定期的に開催する。（4回/年） 【R4実績3回】</li> <li>各部署で実施する支援内容及び時期を再確認する。（8月）</li> <li>推薦入学者の進路変更理由調査を実施し、次年度以降の支援方法を検討する。（12～2月）</li> </ul>	<p>ア 内部の情報共有と就農支援強化</p> <p>【取組実績】</p> <p>進路担当及び2年生担任で構成する進路指導委員会を開催し（5/11、11/7、2/7）、今年度の支援内容、中間検討、実績及び次年度の取り組みについて情報を共有し支援を実施した。</p> <p>推薦入学者の進路変更理由調査及び支援内容時期について検討した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就農率：60.0%（36人/60人 見込含む 2/5現在）</li> <li>参考：学科及びコースごとの就農率 普通作 58.3%、露地野菜 73.3%、果樹 75.0%、畜産 66.7%、施設野菜 46.2%、花き 33.3%</li> <li>進路変更者 15人中9人調査済（2/7現在）</li> </ul>	<p>ア 内部の情報共有と就農支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内部の支援内容等の情報共有や各職員が責任を持って行動するため引き続き実施する。</li> </ul>	<p>・農業のたいへんな面だけでなく、すばらしさも教え、就農後に夢を持てるよう指導してもらいたい。</p>

<p>イ【継続】茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営士等との意見交換会を開催する。 (3回：5、6、12月)</li> <li>・農業法人への理解促進及び就農希望者と農業法人とのマッチングを実施する。(4回：6、7、12月)【R4実績4回】</li> <li>・農家及び農業法人への校外学習等現地研修会を実施する。(随時)</li> <li>・雇用就農希望者に対する個別相談会を実施し、伴走支援を実施する。(5月～)</li> <li>・長期派遣実習の受入農家の選定支援や受入農家への就農を支援する。(6月～11月)</li> <li>・就農に向けた体験研修(インターンシップ等)を支援する。(随時)</li> <li>・就農事例をHPに掲載する。 (3事例/年、8月)【R4実績3事例】</li> </ul>	<p>イ 茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p> <p>【取組実績】</p> <p>雇用就農を支援するため、茨城県農林振興公社と連携し、農業三士等からの講話や意見交換会を実施し、農業の良さや農業の現状を学生に知ってもらうとともに、雇用を求めている農業法人等との面談会を実施し、学生が農業法人等と直接話す機会を持った。また、雇用就農希望者の学生との個別面談を実施し、就農を支援した。</p> <p>(ア) 意見交換会・マッチング会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農促進講座：農業経営士からの講話(農業部2年生)(5/15)</li> <li>・プレ農業人フェスタ：農業法人及び農業三士等との面談会(農業部、園芸部1、2年生)(6/1)</li> <li>・新農業人フェア：農業法人とのマッチング(農業部1年生9人、研究科2人参加)(7/1)</li> <li>・就農・就職セミナー：農業法人等とのマッチング(1年生40人、2年生19人参加)(7/10)</li> <li>・新農業人フェア：農業法人とのマッチング(農業部1年生3人、2年生3人、園芸部1年生1人参加、12/16)</li> </ul> <p>(イ) マッチング会参加農家への就農者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/1 プレ農業人フェスタ：8人(6農家)</li> <li>・7/10 就農・就職セミナー：3人(2農家)</li> </ul> <p>(ウ) 農家への校外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通作1農家、露地野菜3農家、果樹9農家、畜産学科8農家・2組織、施設野菜1農家、花き2農家、研究科8農家(1/25現在)。</li> </ul> <p>(エ) 面談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業部2年生全員(5/15)、園芸部1年生全員(7/7)、雇用就農希望で進路未定学生16人(10/26・27)、農業部1年生全員(12/4)、園芸部全員(12/14)</li> </ul> <p>(オ) 長期派遣実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受入農家数：農業部41農家(8/23～9/22)、園芸部19農家(10/23～11/22)</li> </ul> <p>(カ) 見学・体験(長期派遣実習除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林振興公社等を通じて、31人が49農家で実施</li> </ul> <p>(キ) 就農事例HP掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2事例(親元、雇用各1事例、9月HPに掲載)</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用就農者数(見込含む)は27人(就農者の75.0%：2/5現在)となった。</li> </ul>	<p>イ 茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非農家出身の学生が近年大半を占めるため、就農率向上には雇用就農支援が重要であり、関係機関との連携は継続していく。</li> <li>・雇用就農後の学生の定着状況の確認を行う。早期退職者等がいる場合は、問題の把握に努め進路支援の参考とする。また、早期退職者になるべく出ないように、学生に対して会社を選ぶポイントの研修会を開催する。 講師：社会保険労務士など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農にあたっては、「人生100年時代」を見据え、どの年代でどのくらいのお金が必要かなど、営農計画や人生設計(ライフ・プラン)を在学中に立てられるとよい。</li> </ul>
<p>ウ【継続】先進農業派遣実習(2年生)を通じた進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後の雇用就農等につながるよう、プレ農業人フェスタ開催時期を6月上旬に実施する。(6月)</li> <li>・実習受入農家への就農希望学生に対し支援する。(10月～)</li> </ul>	<p>ウ【継続】先進農業派遣実習(2年生)を通じた進路指導</p> <p>【取組実績】</p> <p>プレ農業人フェスタは、農林振興公社等関係機関と調整し、長期派遣実習の受入農家につながるよう6月1日に開催した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ農業人フェスタ参加農家を先進農業派遣実習農家とした学生は14人で、そのまま実習先に就農した学生は3人であった。その他4人が、実習は行わなかったが実習受入農家に就農した。</li> </ul>	<p>ウ 先進農業派遣実習(2年生)を通じた進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月間の実習で、雇用希望先との相性等確認できる良い機会であるため継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進農業派遣実習が、インターンシップの役割も果たしている点はよい。</li> </ul>

<p>エ【継続】市町村、地域就農支援協議会<sup>※</sup>等と連携した自家就農及び新規参入への支援          ※地域の農業担い手確保・育成のため、農業改良普及センター、市町村、農業委員会、JA、農業者などで構成された組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家就農及び新規参入就農希望者に対する研修会を開催する。          (2回：11～12月)【R4実績1回】</li> <li>・農場体験会などの情報を提供する。随時</li> </ul> <p>オ【拡充】担い手確保を目指している果樹産地等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹産地等（地域就農支援協議会等）と連携し、産地の担い手受入や雇用等の情報を収集し、産地見学会や体験などの情報を提供する。(随時)</li> <li>・産地の現状や支援内容を確認し就農意欲を醸成するため、産地研修会等に学生を参加させる。(5、9、11月)</li> </ul>	<p>エ【継続】市町村、地域就農支援協議会<sup>※</sup>等と連携した自家就農及び新規参入への支援</p> <p>【取組実績】          就農後に、収支計画が作成できるように、自家就農及び新規参入希望者に対する研修会を開催した。          また、地域の新規就農支援等の研修情報を周知した。</p> <p>(ア) 自家就農等研修会          ・2日間で26人が参加した。(1/11：14人、1/15：12人)</p> <p>(イ) 農林振興公社主催「農場見学会・就農相談会」          ・将来新規参入を目指す学生1人(10/7 県央地域)が参加した。</p> <p>【成果】          ・雇用就農などの後、将来新規参入を希望する学生は5人であった。</p> <p>オ【拡充】担い手確保を目指している果樹産地等との連携強化</p> <p>【取組実績】          学生に進路先情報のひとつとし情報提供するため、JA北つくばで実施している産地研修会及び意見交換会に、学生が参加した。          また、各地域で取り組みが広がるよう農業総合センター担い手専門技術員にも情報提供した。</p> <p>(ア) JA北つくばで開催された産地見学会          ・第1回5/24：27人、第2回9/29：28人、第3回11/1：4人が参加した。</p> <p>【成果】          ・JA北つくば管内には4人の学生が雇用就農した。</p>	<p>エ 市町村、地域就農支援協議会等と連携した自家就農及び新規参入への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のうち専業農家子弟の割合は少なくなっているが、自ら経営ビジョン等を考える機会や関係者等との話を聞く機会は重要であるため継続して実施する。</li> <li>・取組内容が産地との連携が主のため、次年度は下記オと取り組みを合わせる。</li> </ul> <p>オ 担い手確保を目指している果樹産地等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携強化先（現在はJA北つくばが主）を増やしていく必要がある。また、研修には参加するが、就農までの道筋の流れが確立されていないので、関係機関と話を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA北つくば管内は、大きな産地が多数あるので、新規就農希望者の受け皿として今後さらに期待できるため、学生の進路希望と産地とのマッチングをうまく進めていってほしい。</li> </ul>
---	---	--	--

(2) 進路決定率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント(全般)
卒業時進路決定率 100% 【R4実績98.3%】	B	2年生60人のうち進路決定者は57人、進路決定率は95.0%(3/7現在)となっており、目標達成度は95.0%となっている。 進路未決定3人に対しても、個別面談や希望に応じた進路情報等を提供することで進路活動を促進し、2人については進路希望の方向が定まり、今後進路が決定すれば、明確な方向性が定まっていなかった1人を除き、進路決定率は98.3%になる見込みである。 なお、1年生に対しては、早い段階から進路活動に対する意識を持たせるため、就職セミナー等の開催及び参加誘導、新農業人フェア等の情報提供、就農等進路活動に関するスケジュールの説明等を行い、就農や就職に対する意識を高めることができた。	早い段階から就農・就職に向けた意識醸成に取り組むとともに、個別学生の相談にも対応していることは評価できる。 就農・就職後の早期離職者を減らすための対応も期待したい。 達成度の評価基準と照らし、B評価は適当である。

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果 ※( )内は前年度実績	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望に応じた支援を行うため、進路希望調査を実施する。          (進路希望調査：1年生：4、11月、2年生：5、10月)</li> <li>・学生の進路進捗動向を把握し、適切な進路指導を実施するため、就農・就職進路進捗調査を毎月実施する。(6月～)</li> <li>・ハローワークによる就活研修会を開催する。(6月)</li> <li>・当校に求人があった企業等とのマッチング会を開催する。</li> </ul>	<p>ア【継続】早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <p>【取組実績】          学生に早い時期より、進路に対する意識をもってもらうため、進路希望調査、外部講師によるマナー等向上研修会を実施した。          1年生に対して、校外短期派遣研修の周知や各種就農イベント情報を周知し、参加するように呼び掛けた。          また、6月より2年生の進路進捗状況を毎月把握し、学生の希</p>	<p>ア 早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動開始時期が遅い学生が毎年見受けられるため、継続的に支援し学生の就活に対する意識を早い段階から高めるよう支援する。</li> <li>・関連企業等の見学についても、1年生の時から積極的に会社見学等に参加するよう、学生への周知と職員の意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学校出身者に限らず、一般の大学や高校等においても、早期離職者の対策が課題になっている。先進農業派遣実習や校外農業短期研修などは、インターンシップの機会ととらえて積極的に活用し、就職先とのミスマッチを減らす取り組みは重要であ</li> </ul>

<p>(2回: 6、7月) 【R4実績2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路未確定者へ求人情報提供や個別相談を実施する。(随時)</li> <li>・早期の進路決定や意識啓蒙を図るため、1年生に対し就職セミナーを実施する。(3回: 6、7、2月) 【R4実績3回】</li> <li>・1年次の選択授業である「校外農業短期研修」を周知する。(6月)</li> <li>・就職が決定した2年生の助言による研修会を開催する。(1月)</li> <li>・次年度以降の進路指導に活用するため、就職者及び進学内定者から試験内容等の情報を受領する。(随時)</li> </ul>	<p>望に沿った進路支援を行った。</p> <p>(ア) 進路希望調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業部1年生: 4、10月、2年生: 4、5、10月、園芸部1年生: 4、7月、12月、2年生: 4月</li> </ul> <p>(イ) マッチング会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/1 (参加農業法人32、その他相談ブース15: 全員参加)</li> <li>・7/10 (参加企業等24: 1年生: 40人、2年生: 19人参加)</li> </ul> <p>(ウ) マナー等研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業部2年生 (6/22)、園芸部2年生 (7/5)、園芸部2年生 (2/19)</li> </ul> <p>(エ) 校外農業短期研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業部1年生6人</li> </ul> <p>(オ) 面接等に向けた就活研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業部親元就農以外1年生 (2/26)</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定者は、2年生60人のうち進路決定者は53人で、進路決定率は88.3% (2/5 現在) となった。残り7人中6人は進路希望先が明確で就活中であり、進路決定率は98.3%となる見込みである。</li> </ul>		<p>る。</p>
---	---	--	-----------